

報告

外部英語 4 技能試験について ～大学入試英語成績提供システムへの各団体の対応～ (2018 年度関東支部大会 特別企画 報告)

齋藤 裕紀恵^A

英検 (公益財団法人日本英語検定協会)

TEAP (同上)

IELTS (British Council)

ケンブリッジ英語検定 (ケンブリッジ大学英語検定機構)

GTEC (株式会社ベネッセコーポレーション)

TOEIC L&R および TOEIC S&W (一般社団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

TOEFL iBT テスト (国際教育交換協議会(CIEE))

(各テスト正式名称は下記に記載) *カッコ内は実施団体体名

1 外部英語 4 技能試験導入の背景

文部科学省がコミュニケーションを重視した英語教育の必要性を提言してから久しいが、大学英語入試が依然として、コミュニケーション重視の英語教育の導入を妨げていると言われている^{1,2,3)}。文部科学省はその問題に対処するために、これまでのリーディングとリスニングの2技能を測る大学入試センター試験の英語に代わる外部英語 4 技能試験導入を 2020 年度から開始することを決定した⁴⁾。大学入試センター試験の英語も、2020 度に大学入試共通テストとして改定されるが、現時点ではその大学入試共通テストの英語入試の提供は 2023 年度までの予定で、2024 年度以降は外部英語 4 技能試験のみが対象となる⁵⁾。スピーキングとライティングを加えた外部英語 4 技能試験の導入は肯定的な波及効果をもたらすことが期待されている。また導入は今後の英語教育、そしてグローバル人材教育に多くの影響を与えられと考えられる。しかしながら、大学入試英語成績提供システムに対応する外部英語 4 技能試験が現時点で 8 種類もあり、まず外部英語 4 技能試験について知ることが緊急の課題である。現場で実際に指導の点から対応が必要な高校教師、また外部対応が必要な大学側に、有益な情報を提供する目的で、英語 4 技能入試について高校生を受け入れる側から 8

種類の外部英語 4 技能試験を実施する 7 団体の責任者から試験の特色とどのような高校生が受験すべきかについて話を聞いた。2020 年度からは、以下対照表が示すように、各試験結果がそれに対応する CEFR レベルともに志望大学に提供される⁶⁾。CEFR(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)は一番高いレベルである C2 (熟達した言語使用者) から A1 (基礎段階の言語使用者) まで 6 段階 (次頁、図 1) に分かれている⁷⁾。

2 各試験の特色

2.1 英検 (実用英語検定)

英検は生涯資格としての実用英語技能検定 (学習指導要領を参考) である。これまでの一次・二次の 2 段階方式に加えて、大学入試英語成績提供システムへの対応する「英検 2020 2days S-Interview」(1 日目は RLW の筆記、2 日目は S の対面式面接) と「英検 1day S-CBT」(同日に RLW の筆記、S の Computer ベースによる面接) が 2019 年より導入予定である。対象となる級は 3 級、準 2 級、2 級、準 1 級、1 級である。出題内容に関しては従来型の英検と同じ。2020 年共通テストでは、すでに実施されている「英検 CBT」を含め、全員がスピーキング (対面式または吹き込み式) まで受験できる英検の新しい 3 方式より選択可能となる。生

A: 明治大学国際日本学部

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省(平成30年3月)

| CEFR | ケンブリッジ 英語検定 | 実用英語技能検定 (2級-3級) | GTEC Advanced Basic Core CBT | IELTS | TEAP | TEAP CBT | TOEFL iBT | TOEIC L&R/ TOEIC S&W |
|-----------|-----------------|---------------------|--|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-------------------------------|
| C2 | 230 200 | | | 9.0 8.5 | | | | |
| C1 | 199 180 | 3299 2600 | 1400 1350 | 8.0 7.0 | 400 375 | 800 | 120 95 | 1990 1845 |
| B2 | 179 160 | 2599 2300 | 1349 1190 | 6.5 5.5 | 374 309 | 795 600 | 94 72 | 1840 1560 |
| B1 | 159 140 | 2299 1950 | 1189 960 | 5.0 4.0 | 308 225 | 595 420 | 71 42 | 1555 1150 |
| A2 | 139 120 | 1949 1700 | 959 690 | | 224 135 | 415 235 | | 1145 625 |
| A1 | 119 100 | 1699 1400 | 689 270 | | | | | 620 320 |

□ 表中の数値は各資格・検定試験の定められた試験結果のスコアを示す。スコア記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に記載する能力を有していると認定できないことを意味する。
 ※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTEC試験の結果から構成されており、それぞれの結果がCEFRとの対照関係として認定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合はCEFRの判定は行わず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。
 ※ TOEIC L&R/ TOEIC S&WにL&RはTOEIC S&Wのスコアを1.5倍して合算したスコアで表す。
 ※ 障害等のある受検者に対して、一部試験を除く場合があるが、そうした場合はCEFRとの対照関係にL&Rは、各資格・検定試験実施主体に依りて表示する。

図1 各試験・検定試験とCEFRとの対照表

涯資格と大学入試の両方で活用できるため、将来を見据えた高校生に受験を勧める。なお、大学入試英語成績システムを利用しない入試ではもちろん従来型の英検が使用可能だ。

2.2 TEAP (Test of English for Academic Purposes) /TEAP CBT

TEAP は大学入試用に開発された 4 技能型アカデミック英語能力判定試験(学習指導要領を参考)である。英検準 2 級～準 1 級相当の難易度で、日本の高校 3 年生の「大学教育レベルにふさわしい英語力」を測定。検定日は年 3 回、個人・団体の申込可能。20 都道府県の公開会場で実施しており、今後も増設予定。RLW は筆記、S は面接。成績は CEFR 対応の TEAP スコアが 1 点刻みで表示され、各技能 100 点満点(総合 400 点満点)。出題問題は、大学教育で遭遇する語彙・場面等を想定した内容で、アカデミックな英語に特化。TEAP CBT は Computer ベースの試験で、年 3 回受験可能。11 都市で受験可能である。2020 年度からの共通テストに利用可能。4 技能をバランスよく学習し、大学入学後に TOEFL、IELTS を受験して留学を希望する高校生に勧める。

2.3 IELTS (International English Language Testing System)

年間、全世界 140 개국以上で 300 万人以上の人々が受験をしている。4 技能のテストの合計所要時間は約 2 時間 45 分。スピーキングは対面式で行われる。IELTS は全国 15 都市で、ほぼ毎週実施。レベルは 1 から 9 までのバンドで示される。バンド 9 が一番高くエキスパート・ユーザーとして評価される。各技能の英語力がバンドスコアで示される他に、総合評価としてオーバーオール・バンド・スコアが与えられる。レベル 9 は CEFR で C1 レベルであり、大学入試英語成績提供システムへの対応としては B1 レベル以上、バンド 4 から 9 までの成績が提供される。IELTS は海外留学や研修の際に、英語力の証明として使えるため、大学に入学してから留学を考えている高校生は慣れて置く意味で IELTS 受験を視野に入りたい。

2.4 ケンブリッジ英語検定

Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構) の英語検定の試験受検者は世界 130 개국以上、年間 550 万人。CEFR に完全準拠しているのが特徴の 1 つ。A2 Key は約 30 年前に日本の高校生のためにケンブリッジが作った試験が前身となってい

るなど、学習指導要領との親和性も高い。「大学入試英語成績提供システム」には A2 Key から最高峰 C2 Proficiency まで 5 レベル 8 種類。なお、すべてのケンブリッジ英語検定で全参加要件を満たしていることが確認された。スピーキングテストは他の受検者と一緒に対面式で行うペア型面接であるためリアルなコミュニケーションスキルの測定が可能。すでに世界各国での実績があることから、進学や就職など海外に活躍の場を求める学生に向いている。

2.5 GTEC(Global Test of English Communication)

GTEC はすでに高校の現場で幅広く利用されており、2018 年度は 120 万人の中高生が受験する予定。大学入試英語成績提供システムへの対応するテストは GTEC, GTC CBT である。GTEC は英語のコミュニケーション力を測る英語 4 技能試験で、LRW は筆記 (LR はマークセンス方式)、S はタブレットを使用したテスト、GTEC CBT は 4 技能をコンピューターで受験する英語のテスト。学習指導要領から想定される「日常的な言語使用場面」と大学での「アカデミックな言語使用場面」におけるタスクより構成されている。2020 年には GTEC が年 4 回、GTEC CBT が年 2 回受験可能予定である。学習指導要領に沿った出題であり、日常生活に加えてアカデミックな内容も含むので国内外の大学進学を希望する高校生に勧める。

2.6 TOEIC Tests (TOEIC Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R) および TOEIC Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W))

大学入試英語成績提供システムへ対応するテストは、TOEIC L&R と TOEIC S&W で公開テストの受験が必要となる。大学入試英語成績提供システムを利用する場合のみ、TOEIC S&W のスコアを 2.5 倍にして合算したスコアで判定する。現時点では TOEIC L&R は年 10 回、TOEIC S&W は年 24 回実施予定。TOEIC L&R スコアと TOEIC S&W スコアは、大学におけるプレイスメント・成績評価・単位認定、就職活動時の英語能力アピール、企業では海外駐在基準や昇進・昇格要件等、キャリアを通じて幅広く活用できる。大学入試に留まらず、将来グローバルに活躍したいと考えている高校生にチャレンジしてもらいたい。

2.7 TOEFL(Test of English as a Foreign Language) iBT テスト®

TOEFL®テストは、英語を母語としない人々の英語力を測定するために作成された世界基準のアカデミックテストで、そのスコアは 130 カ国 10,000 以上の教育機関で利用されている。4 技能を測定する TOEFL iBT®テストは全セクションをコンピューター上で受験。複数の技能を同時に測定する統合的問題 (Integrated task) 等を通して、学習環境下で書かれていることや実際に話される講義・会話を理解し、意見が述べられるか、また論旨明らかな文章が書けるかをグローバルスタンダードの基準に照合し、世界の高等教育機関 (主に大学、大学院) で求められる英語力を測定する。世界中の高等教育に関心のある高校生、常に学び続ける意欲を持つ高校生の利用を勧める。

3 おわりに

本報告は、上記に挙げた 8 種類の試験について 7 団体から話を聞き、さらに試験内容の正確な把握のため調査を行った上で、各試験団体に原稿の確認を依頼した上で作成した。センター試験の英語に代わって、8 種類の試験を導入することは前例のないことである。そのためにも、現場で指導にあたる高校教師、また受け入れ先の大学が、8 種類の試験と大学入試英語成績提供システムについて知識を深めることが期待されている。そういう意味でも今回、7 団体の責任者から話を聞いたことは貴重であり、今後もこのような情報共有の機会を継続して設けていく必要があるだろう。

また外部英語 4 技能試験の導入はコミュニケーション重視の英語教育の転換の可能性など肯定的な波及効果だけでなく、外部 4 技能試験導入の際の混乱や授業が外部 4 技能試験対策になる可能性など否定的な波及効果も考えられる。外部英語 4 技能試験の肯定的な波及効果を最大化して、かつ否定的な波及効果を最小化するためにも、可能性ある波及効果について検証と対応が欠かせないだろう。

引用・参考文献

- 1) Nishino, T. (2008). Japanese secondary school teachers' beliefs and practices regarding communicative language teaching: An exploratory study. *JALT Journal*, 30, 27-50.
- 2) O'Donnell, K. (2005). Japanese secondary high English

teachers: negotiation of educational roles in the face of curricular reform. *Language, Culture, and Curriculum*, 18(3), 300-315.

3) Taguchi, N. (2005). The communicative approach in Japanese secondary schools: teachers' perceptions and practice. *The Language Teacher*; 29(3), 3-9.

4) 文部科学省：大学入学者選抜改革について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/1388131.htm

5) 文部科学省：大学入学共通テスト実施方針
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1397731.htm

6) 文部科学省：各資格・検定試験とCEFRとの対照表

www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/.../1402610.pdf

7) Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge, England: Cambridge University Press.

謝辞

本報告の作成の際には、各試験団体より原稿の確認をしてもらい必要な箇所は加筆・修正のご協力を頂いた。

受付日 2018年9月7日、受理日 2018年9月15日